

平成30年度は、「OFIX 中期経営計画」(平成30～34年度)の初年度であり、吉川新理事長を筆頭に、目標達成に向けて、OFIXの持つノウハウ、ネットワークなどの資源を活かし、積極的に事業を推進しています。今号では、4～6月に実施したOFIXの各事業について紹介します。

OFIXでは、事業の重点目標に、“多文化共生機能(地域における情報の多言語化等)の強化”を掲げ、財団運営に取り組んでおり、今号の特集では、OFIXの国際理解教育への取り組みをはじめ、府内の多文化共生教育について紹介します。

★ 災害時外国人支援 (防災・災害時訓練) ★

■平成30年度第1回 大阪府災害時外国人支援ネットワーク会議

■実施日: 5月25日(金) ■参加者: 27名

大阪府域で大規模災害発生時に、在住外国人等への多言語支援が円滑に行えるよう、市町村・国際交流協会間でのネットワークの構築を目的とした本会議は、「災害時外国人支援における国際交流協会等の役割」を今年度のテーマに掲げています。



第1回目は、(一財)熊本市国際交流振興事業団八木事務局長を講師に招き、平成28年熊本地震での支援経験についての講義の後、参加団体の活動地域で災害が発生したと仮定し、それぞれの活動内容や課題を考えるワークショップを実施しました。

会議の最後には支援活動を行ううえで、他団体やボランティア等との日頃のつながりや連携が大切であるとの講師の言葉を受け、参加団体それぞれが改めて自らの現状を見つめ直す機会となりました。

★ コミュニティ通訳ボランティア研修 ★

■実施日: 6月21日(木)・22日(金)・29日(金)

■参加者: 29名(9言語のOFIX語学ボランティア)

前半2日間の座学では、コミュニティ通訳に関する基礎知識の講義やケーススタディを通して、コミュニティ通訳ボランティアに必要な資質などを学び考えていただきました。

最終日のコミュニティ通訳の模擬訓練(ロールプレイ)では、市役所での転入手続きや学校での面談場面を設定し、言語ごとのグループに分かれ、外国人の方と行政職員の面談等を想定した対面方式の通訳や、携帯電話の3者通話機能を利用した遠隔通訳を行いました。

あらかじめ配付した資料だけでは予測できない会話の流れや、慣れない行政用語等の通訳に苦労しながらも、外国人住民がどんな場面でコミュニティ通訳を必要とするのかを具体的にイメージしていただくことができたようでした。



★ 留学生支援 ★ in オリオン寮 (大阪府堺留学生会館)

■オリオン寮地域交流会 (ウェルカムパーティー)

■実施日: 5月26日(土)

■参加者: 58名(寮生、近隣住民他)



寮生と近隣住民の方々との親睦を深めるための地域交流会(ウェルカムパーティー)を、オリオン寮チューターが企画し、今年も実施しました。

東上野芝町2丁目自治会長様、老人クラブ健朗会会長様のご挨拶の後、今回2度目となる和太鼓の演奏を、“堺御陵太鼓”の皆様披露していただきました。力強く迫力のある演奏に、和太鼓に興味を持った参加者たちは、その後レッスンを受け、みんなで太鼓をたたきながら自分たちで奏でる太鼓の音色を楽しんでいました。

最後は、“老人クラブ健朗会”の方に教えていただきながら、「ふるさと」や「北国の春」を全員で合唱し、「親睦」の会は終了となりました。



★ 外国人住民向け地域合同一日相談会 ★

■実施日: 6月10日(日) ■相談者: 3名(相談件数3件)

和泉市、和泉商工会議所、和泉市国際交流協会と合同で、「外国人のための一日相談サービス」を開催しました。弁護士、行政書士、社会保険労務士の専門家とOFIXの英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語の通訳ボランティアの方の協力により、相談対応を行いました。

今年度より、府内市町村及び国際交流協会がOFIXとともに府内の別の市町村等、他の団体と共催することで、より多くの外国人住民の方に参加していただくことを目的として、本合同相談会を実施していきます。

お知らせ

平成30年度やさしい日本語事業について

府域の行政・国際交流協会を対象に、「やさしい日本語」のネットワーク会議や研修、実践ワーク(勉強会)を実施し、「やさしい日本語」の普及を支援します。

第1回目のネットワーク会議は7月27日開催予定で、9月には、やさしい日本語「カテゴリー1」、「カテゴリー2」と2回の研修を行う予定です。

府内教育現場の国際理解教育の現状

OFIX の国際理解教育への取り組み ～平成 29 年度実績から～

府内在住外国人数は増加傾向にあり、多文化共生社会の実現が重要視されており、教育現場においても、子どもたちへの多文化共生教育が導入されつつあります。

OFIX では、留学生や外国人住民の方々にサポーターとして登録していただき、府内の小・中・高等学校等が行う国際理解教育授業に派遣しています。

現在、22 か国・地域の 86 名（平成 30 年 6 月現在）のサポーターが、府内の小・中・高校で国際理解教育の現場で活躍しています。

昨年度（平成 29 年度）は、延べ 63 の学校に 129 名のサポ

ーターを派遣しました。アンケート結果によると、先生・生徒の満足度は 93% で、アンケートを開始した平成 27 年度以降 90% 以上を維持しています。

最近では、サポーターの国・地域を生徒たちが調べる事前学習に始まり、授業後には、サポーターの発表で学んだことを生徒同士で発表し合うまとめ学習を行う学校等、国際理解教育の授業を総合的な多文化共生教育の取り組みの一環として捉える傾向がみられます。



「ちがいを」認め合い、共に育つ学校づくりを目指して 門真市立第四中学校 前塚 卓三

本校には、中国につながりのある生徒が多数在籍しています。入学時より校内の日本語教室の紹介をし、他の生徒たちには直接編入生に対する理解を深めてもらうため、「もしクラスに日本語が話せない生徒が編入したら？」というテーマで授業をしています。また、中国ゴマや切り絵などを体験したり、生徒全員で中国残留邦人の映画を鑑賞し、外国につながりのある子どもが書いた作文を読む「中国 DAY」を実施しています。遊びや体験を通して、「ちがいを」出会うことで興味・関心を持ち、仲間への理解を深めています。



多文化共生学習の一環として、OFIX の外国人サポーターに来ていただいて国際理解教育の授業を行っています。事前学習として、大阪府在日外国人教育研究協議会発行の『ちがいでドキドキ多文化共生ナビ』を活用し、「ブラジル人はみんなサッカーが好き」というステレオタイプや、無責任な発言が相手の心を傷つける「マイクロアグレッション」について考えます。授業後も、国ごとにポスターセッションなどを通じて学んだことを共有し、異文化理解と興味・関心を喚起しています。

近年の情報が氾濫したネット社会の中で、情報に左右されず、多様な見方で物事を正しく判断することができる生徒を育成することが目標です。「ちがいを」について学ぶ取り組みによって、お互いの違いを認め合うこと、周りの仲間のことを大切に考えることを、日常の学校生活に生かしていくことが課題だと考えています。

河内長野市教育メディアセンターにおける 海外との遠隔交流授業

河内長野市教育メディアセンター 梅田 昌二

河内長野市では、早くから英語教育と情報教育に力を入れてきました。その中で、ICT (Information and Communication Technology 「情報通信技術」) による英語教育にも積極的に取り組んできました。平成 14 年には、河内長野市教育メディアセンターのテレビ会議システムを活用し、カナダやシンガポールとの英語による交流授業が行われました。海外との交流授業は、その後、オーストラリアとの「日豪語学協働学習」に発展していきました。日本語と英語を協働で学習する授業で、平成 17 年にスタートし、現在は市内の学校で毎年 50 回以上実施されています。生徒たちの英語学習への関心・意欲を高め、リアルにコミュニケーションする能力を育てることができます。



交流の輪を広げる中、JICA の支援により開発途上国等の様々な環境を紹介していただいています。日本では想像もつかない状況の中で、たくましく生きる子どもたち。彼らから大切なことを教えてもらっています。支援の一環である「JICA 遠隔授業」は、ボツワナで青年海外協力隊員として活躍された方が、平成 17 年に OFIX 内の JICA デスクから実施された「ボツワナレポート」に携わったことから始まりました。最近、インターネット環境の向上で現地からの遠隔授業にも取り組んでおり、昨年、アフリカや南米等とつないだ授業を 15 回以上行っています。この授業を通して、生徒たちが多様な文化を持つ人々と交流し、互いの理解を深め、共生する力を育ててほしいと願っています。

現在活躍中の、3名のOFIX国際理解教育外国人サポーターの方にお集まりいただき、サポーターになった経緯をお聞きした後、授業において心がけていることややりがい、また今後やってみたい取り組みなどについてお話しいただきました。座談会を通し、サポーターの方々のさらなる授業の改善や意欲を高めるために、OFIXのサポート体制の強化の重要性を再認識しました。



池本 ニルミニ (スリランカ：5年)
イクモト ニルミニさん (N)

Pankratova Snezhanna (ロシア：4年)
パンクラートワ スネジャーナさん (S)



Mohsen Moaz (エジプト：3年)
モフセン モアーズさん (M)

〈出身国：サポーター暦〉 (略名)

授業をして嬉しかったこと、やりがい

N: 教室に入ると、私の国スリランカについて、事前に調べたことをボードに書いてくれていました。また複雑な図柄の国旗を、色紙で工作したものを教室に貼って待っていてくれたこともあります。

N、M: 逆に、大阪の文化や食べ物を書いた大きな紙を貼りだして、教えてくれたりも。

S: 授業前に校長先生が、クラスや生徒たちの色々な情報を提供してくださったおかげで、安心して、適切な授業をすることができました。

授業に生徒たちが関心を持てるよう、工夫していることや、心がけていること

N: 日頃飲んでいる紅茶のほとんどが、スリランカ産であることや、サリーが5メートルもある一枚の布を巻いているだけなど、注目を得られるような話題を紹介します。

司: いわゆる“つかみ”ですね。

M: 民族衣装を身に着け、授業で着せてあげると、着方や脱ぎ方がわからず、喜びながら体験してくれます。

M、S: 私の国では、最近、日頃民族衣装は身に着けませんが、授業に着ていくと、生徒たちは日常で着ていると勘違いしてしまう。そこはきちんと教えないと。

S: 生徒たちには、ロシア人は皆、色が白くて金髪というステレオタイプなイメージがあり、ロシア人にも日本人と同じような顔立ちの人もいるなどの紹介もするようにしています。

S: 私は、異文化理解は段階があるのかなと。一つの段階で十分な理解は得られない。ワンステップを終えてまた新たな情報を提供し、複数のステップを踏んでいって正式なイメージをつかんでもらえる。それが多文化理解につながるのかと。

N: 私は、日本とのつながりや、共通点を伝えることも大切だと考えています。

司: 違う国でも同じ人間で、違いがあれども共通点もあることを理解してもらうことが多文化共生授業ですね。

今後授業でやってみたいこと、抱負など

M: 授業後は、いつも振り返りをし、自分なりに反省点を挙げて次の授業に活かしています。

N: パワーポイントでの見せ方も工夫したい。小さいコインやお札は、現物より拡大して細部まで見ると関心を得られます。一方、授業が短時間の場合、紙ベースの資料を使いつつ、トーク主体の従来の方法の方が有効であると考えています。

S: 私は、私と生徒全員が、お互いの顔や動作が見えるよう、U字型に配席した教室でインタラクティブ

な授業をやってみたいですね。また、保護者の方にも授業を受けてもらいたいです。

N: そう、私たちが生徒たちにおこなっている授業に、保護者の方にも参加してほしい。

司: 保護者参観日の公開国際理解教育授業ですね。

S: いつも同じ授業にならないよう、改善を心がけていますが、そのためには、授業後、生徒や先生からの“フィードバック”の情報がとても大切です。生徒たちの率直な意見・感想を共有し、さらに考えることで、今後の授業や対応を改善していくことができると思います。 N、M: 本当にそう思います。

司: これからも前向きな授業を期待しています。有難うございました。(※文中の“司”は、司会者の発言)



OFIX 国際理解教育外国人サポーター研修



■実施日：6月16日(土)

前半は、異文化理解のための授業の経験豊かなJICA関西国際協力推進員 鍋内郷子氏を講師にお迎えし、“模擬授業”を行っていただきました。鍋内氏が赴任されていたセネガルの国の特色や言葉を紹介するプレゼンテーションです。写真のスライドの合間に、クイズや質問を挟むなど、生徒の集中力が途切れないような“参加型”の授業に、サポーターは熱心に見入っていました。また先輩サポーター王 露(オウロ)さんの“模擬授業”は、新規のサポーターの方にとって大いに参考となったようです。後半のグループワークでは、各自考えた5分間の授業を、

■参加者：13名

グループごとに発表しました。紙にイラストを描いたり、事前に準備してきたパワーポイントで説明したり、時にはスマートフォンを使いながら自国を紹介する参加者も。発表後は、良かった点、改善点を話し合い、互いに刺激を受けたようです。

最後に講師から、“問いかけは選択肢制にする”、“スライドに頼りすぎず、動画や実物を見せる”など、具体的なアドバイスをいただき、プレゼン能力の向上に大いに役立ったようです。

新規サポーター

沈 吉穎(シン キツエイさん(中国))



模擬授業を参考にして、早く初めての授業をやりたいです!

お知らせ

平成 30 年度安藤プログラム研修生決定

今年度の大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業(安藤プログラム)には、11か国51名の応募があり、7か国(インド、インドネシア、タイ、中国、バングラデシュ、ベトナム、マレーシア)8名の研修生を決定しました。

研修生は、9月27日(木)に来阪し、29日間の研修を受け、10月25日(木)に帰国する予定です。

期間中の10月13日(土)～10月14日(日)には、ホームステイを実施しますので、受け入れていただけるホストファミリーも募集します。ご興味のある方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

TEL:06-6966-2400 E-mail:info@ofix.or.jp

【大阪府からのお知らせ】

平成 30 年度大阪 880 万人訓練 9 月 5 日 (水) 実施!

本訓練は、大地震・津波の発生を想定して、エリアメール/緊急速報メールの配信などにより、府内全域に訓練として災害情報を伝達するものです。身を守る行動や、災害時の備えについての確認など、できる範囲での訓練に参加していただくようお願いいたします。

詳細は、大阪府 HP をご覧ください。

http://www.pref.osaka.lg.jp/shobobosai/trainig_top/index.html

参加者募集

大阪府堺留学生会館オリオン寮 秋期入居者募集

OFIX が運営する「大阪府堺留学生会館オリオン寮」では、8月初旬から、秋期入居者を募集します(予定)。

オリオン寮については、下記をご覧ください。

<http://www.ofix.or.jp/accept/support/orion.html>

【JICA 大阪デスク】

2018 年度開発教育・国際教育セミナー(入門編)参加者募集中!

- ◆日時:8月2日(木)10:00～17:00
- ◆会場:JICA 関西(住所:神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2)
- ◆対象:教職員、学生、開発教育・国際教育に関心のある方
- ◆参加費:無料 ◆定員:70名(先着)
- ◆お申込み、お問い合わせ:

JICA 関西 市民参加協力課 開発教育・国際教育セミナー担当

TEL:078-261-0384(直通) FAX:078-261-0357

E-mail:jicaksic-renkei@jica.go.jp

⇒ http://www.jica.go.jp/kansai/event/2018/170804_02.html

▶ OFIX ニュースについてのご意見、ご感想はこちら

E-mail:info@ofix.or.jp

▶ OFIX ニュースバックナンバーはこちら

<http://www.ofix.or.jp/info/mail/backnumber/index.html>

▶ OFIX フェイスブックはこちら

<https://www.facebook.com/osakafoundation>

次回 OFIX ニュース(第 88 号)は、平成 30 年 10 月 15 日発行(予定)です

大阪府外国人情報コーナー

OFIX 内

外国人のための無料相談窓口です
在留資格、労働、医療、福祉、生活などの相談

■ 相談時間

9時～17時30分(月～金 ※祝日除く)

休憩(12時15分～13時)

■ 専用電話 06-6941-2297

■ 相談言語 英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、
スペイン語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語、日本語

■ E-mail jouhou-c@ofix.or.jp

OFIX ホームページ バナー広告募集中! (税別)

日本語ページ 1枠1か月 10,000円

<http://www.ofix.or.jp/banner.html>

英語ページ 1枠1か月 5,000円

<http://www.ofix.or.jp/english/banner.html>

OFIX の賛助会員になりませんか?

法人1口 年額100,000円 個人1口 年額3,000円

<http://www.ofix.or.jp/ofix/support/index.html>



2025 万博
大阪・関西へ

誘致委員会 会員募集中!

EXPO 2025

検索

発行 公益財団法人大阪府国際交流財団(OFIX)

〒540-0029 大阪市中央区本町橋 2-5

マイドームおおさか 5階

TEL:06-6966-2400 FAX:06-6966-2401

<http://www.ofix.or.jp>

